

編集後記

今般第31巻第1・2号は、1篇の事例研究と2編の定量研究で構成されている。どれも素晴らしい研究であり、編集長として嬉しさを禁じ得ない。中西善信先生の事例研究では、競合関係にある複数の組織から派遣されたメンバー達が、共通の目標に向け、互いに協調するコーペティションの過程が活き活きと描写されている。読者の興味と関心を喚起し得るはずだ。犬塚篤先生の調査研究では、Hersey & BlanchardのSituational Leadership論が示唆するところの理想的リーダーシップ・スタイルをコサイン曲線で近似し、その妥当性が検証されている。方法論上とても大胆な試みであり、読者にワクワク感を与えることだろう。そして、LIU TING君の実験研究は、チームレベルの変数（communication）が、チームレベルの変数（チームの創造性等）と個人レベルの諸変数（ストレスと満足）に及ぼす影響を検定したものである。最近の大学院生はメゾレベル研究を行うようになったと知り、とても頼もしく感じた。振り返ってみると、このような諸研究を公刊できたのは、投稿者の努力と研鑽だけではなく、査読者の貢献にも由るところ大であると知った。どの研究も査読者のコメントに従って修正され、推敲され、現時点に到っている。優秀で努力家の投稿者、そして優秀で親切は査読者集団を有する経営行動科学学会を誇りに思う。

編集委員長 渡邊 真一郎

「経営行動科学」第30巻第3号掲載論文の誤植（訂正）

前号掲載論文、正木郁太郎・村本由紀子「性別ダイバーシティの高い職場における職務特性の心理的影響」、134ページ22行目に以下の誤植がありました。お詫びして訂正いたします。

（誤）2017年に施行された「女性活躍推進法」

（正）2016年に施行された「女性活躍推進法」